愛知県震度観測・調査研究結果－第２６報－の概要

１　調査の概要と目的

この調査は、地震動の伝わり方や地域特性を明らかにするため、県内全市町村に設置している計測震度計による震度情報ネットワークの震度観測データ等を活用して、平成 18 年１月～12 月に発生した地震と震度に関する調査結果をまとめたものである。防災対策の基礎資料、県民の地震に対する理解を深めるために活用されることを目的としている。昭和 56 年より１冊／年で発行しており、本書で 26 冊目となる。また、トピックスとして、最新の地震研究に関する話題を掲載した。

２　愛知県震度観測・調査報告書－第２６報－の概要

（１）トピックス

（名古屋大学大学院環境学研究科　安藤雅孝教授）

ア　ゆっくりした地震現象

ゆっくり地震やスロースリップといった“ゆっくりした現象”は、大地震につながる可能性や地震現象の解明の意味からも注目されている。その検出やメカニズムについて、東海地方で平成 12 年後半から観測されたスロースリップの例などを交えて紹介している。

イ　内陸地震による震度

西日本の内陸では、東南海、南海地震が発生する前後に、地震が活発化する傾向が見られる。中央防災会議において検討が続けられている中部圏及び近畿圏の内陸直下で発生する地震について、平成 18 年 12 月に公表された震度予測を中心に紹介している。

（２）震度観測資料

ア　国内外の主要地震

平成 18 年に、国内で、被害を伴った地震の発生は５回であり、死者・行方不明者を伴う地震は発生していない。

平成 18 年に、世界で、人的被害を伴った地震の発生は 38 回であり、死者 10 名以上の地震の発生は４回であった。

イ　愛知県内・近郊の震度観測

平成 18 年に、県内のいずれかの市町村で、震度１以上が観測された地震の発生は 31 回であった。なお、震度４以上が観測された地震は発生していない。

３　調査研究成果の活用

調査報告書は、防災会議に報告するとともに、防災関係機関、市町村に配付し、地震防災対策の基礎資料として活用する。

また、県民が自由に閲覧できるように公立図書館、県民生活プラザ等に配付し、地震についての理解を深めてもらう。